

いわきビジョン

第70号

2009年冬発行

概説

第2頁 いわきで冬を暖かく過ごそう！

周辺の都市に比べると温暖といえるいわきの冬。それでも寒いこの季節を少しでも暖かく過ごすためのキーワードを紹介。

湯本温泉郷： 日本三古泉の1つに数えられる「いわき湯本温泉郷」。1日過ごせばすっかり温まること間違いなしです。また、湯本地区には無料で楽しめる足湯や手湯もあります。

スパリゾート ハワイアンズ： 1年中ハワイのような気候を楽しむことができる「スパリゾート ハワイアンズ」。サモアの火の踊りやポリネシアンダンスショーが、より一層常夏気分を盛り上げます。室内外に数々のプールや温泉がある、いわきを代表するレジャーパークです。

渡り鳥： いわきの冬の暖かさを知っている白鳥などの渡り鳥が、毎年夏井川にやって来ます。今年の冬はコートとマフラーを身につけ、白鳥たちに会いに川へ出かけましょう。

あんこう： いわきの冬の味覚を代表するあんこう鍋。食べれば体の中からぽかぽかになります。



第3頁 2008年いわき市の国際交流 (夏の交流については『いわきビジョン秋号』をご参照ください。)

友好都市 中国・撫順市： 1月～2月にいわき市小中学校書道展が開催され、高橋美優さん(江名小学校)と荻野亜紀さん(湯本第一中学校)が撫順市長賞を、小川涼花さん(長倉小学校)と伊藤茜さん(磐崎中学校)がいわき市長賞をそれぞれ受賞しました。

5月には撫順市人民代表大会の姚啓副主任ら5名が撫順市人民代表大会訪日代表团として来市し、櫛田いわき市長を表敬訪問しました。

2008年が北京オリンピック開催年であることや中国のスポーツ水準の高さを鑑み、10月にはいわき市収入役を団長とする「いわき市スポーツ交流代表訪中団」を撫順市に派遣し、撫順市スポーツ界との交流促進を図りました。

国際姉妹都市 オーストラリア・タウンズビル市： タウンズビル市で開催された日本理解コンテストの優勝者であるハンナ・ヘスロップさんとアレックス・カーショウさんが、引率のトレイシー・ヒル教諭とともに9月下旬に来市しました。いわき秀英高等学校への体験入学やホームステイ、いわき市長への表敬訪問等を行いました。

その他： 世界10か国から13名の港湾開発・計画研修員が8月にいわき市を訪問しました。小名浜港での研修や視察の他、いわきおどりやじゃんがら体験も行いました。

10月にハワイ州カウアイ郡で開催されたカウアイ日本文化祭に、いわき観光まちづくりビューロー、いわきハワイ交流協会等の代表者らとともに市職員も参加しました。

いわき市国際交流協会が韓国文化理解事業を行い、協会員ら14名が韓国を訪問し現地での市民グループとの交流や韓国文化体験活動を通し、韓国に対する理解を深めました。

第4-5頁 いわき市の歴史 -平安時代～近代-

平安時代： 奈良時代の律令制度が崩壊し、地方豪族の台頭とともに郡郷制は再編成されます。磐城郡は古代より磐城家が開発支配してきましたが、9世紀前半には橋をかけて交通の便を図ったり、勸農策を推進したりと、その治世は特筆すべきものでした。しかし、11世紀の終わり頃、常陸から進入した大掾系平氏(岩城氏)と政権を交替することとなります。

白水阿弥陀堂

平安時代の末期には、末法思想が流行し、暗黒の世の光明を求めて阿弥陀如来信仰が盛んになりました。白水阿弥陀堂はこのような時代背景のもとに造営されました。

鎌倉・南北朝時代： 中世時代、いわきなどの浜通り地方は、福島県中通りの山道に対比され、東海道または海道と呼ばれました。鎌

倉時代のいわき地域は鮫川流域、藤原川流域、夏井川流域の地域に分かれていました。

室町・戦国時代： 室町時代には室町幕府と鎌倉府等との対立抗争が続き、戦国時代には諸大名が隣境に侵攻し戦闘を繰り返しました。岩城氏は、侵攻、同盟、婚姻政策などの知略を尽くし乱世を生き抜きましたが、豊臣秀吉らの台頭による天下統一の流れのなかで、次第に勢力を失っていきました。

江戸時代： 岩城氏は関ヶ原の戦いに参戦しなかったことを理由に 1601 年所領を没収され江戸に移り、その後、現在の秋田県由利本荘市岩城に移封されました。この歴史的経緯により、現在いわき市と由利本荘市とは親子都市を締結しています。1622 年には内藤氏がいわき地方に入封し 125 年間この地方を治めました。その後現在の宮城県延岡市に転封となり、その縁で現在いわき市と延岡市は兄弟都市を締結しています。この時代の最後にいわき地方を統治したのは内藤家であり、地域の発展に大いに寄与しました。

明治時代： いわき諸藩は戊辰戦争で新政府と戦った結果、小名浜や四倉を含め、ほとんどが新政府の占領地として管理を受けることになりました。1871 年 7 月の廃藩置県により、全国には 305 府県が設置され、11 月には 75 府県に統合されました。4 県に分けられていたいわき地方は分県とともに平県に統合され、11 月末には磐前県に改称されました。1876 年には、磐前、福島、若松の 3 県が統一され、現在に繋がる福島県となりました。

大正時代～昭和時代： 大正時代には、銀行の開設や鉄道路線の開通がますます進んだほか、ガス灯の点灯や水道給水の開始がなされました。昭和には小名浜港が外国貿易港として発展し、発電所やダムが建設されました。また、1966 年には 14 市町村の合併によりいわき市が誕生しました。

第 6 頁 湯の街ポタリング

日本三古泉の 1 つに数えられるいわき湯本温泉郷には、非常に多くの温泉に加え、魅力あふれる公園や神社、寺院があります。自転車で街中をゆっくりと散策しましょう。湯本地区には無料で楽しめる足湯や手湯があるので、本を読みながらのんびりと楽しむのも良いでしょう。今年の冬は湯本温泉で自転車に乗って汗をかいた後の風呂を楽しんではいかがでしょうか。

第 7 頁 茶道 —いわき人の紹介—

いわき市泉町在住の柴田武夫さんは、いわき市の茶人として良く知られており、柴田さん宅の美しい日本庭園には、福島県から表彰されたこともあるすばらしい茶室があります。

日本の茶道は、日本文化や風習、ものの考え方、茶室に飾る生け花や掛軸等の美術品、禅宗等、広い分野にまたがる総合芸術とされています。禅宗とともに伝えられた抹茶は 15 世紀までに禅宗の広まりと共に精神修養的な要素を強めて広がりしました。

柴田さんは、茶道において大切なのは作法ばかりではなく、お手前を楽しもうとする気持ちであると言います。興味をお持ちの方は柴田さんの茶室での個人またはグループでの茶道体験が可能です。小さな茶室であるため、1 回に参加出来る人数は 3 人までとなります。お問い合わせは 080-5563-2978（月～金曜の午後 6 時～8 時）まで。



第 8 頁 通過儀礼

日本には、人生における様々な節目の儀式があります。ここではその一部を紹介します。

帯祝い	妊娠 5 か月目	胎児の無事な成長と妊婦の安産を祈って岩田帯を巻く儀礼。
七夜	生後 7 日目	赤ちゃんに名前をつけて、その土地に住む人々に報告をする日。
七五三	男子 3、5 歳 女子 3、7 歳	3 歳の男女、5 歳の男子、7 歳の女子が晴れ着に身を包み、11 月 15 日に元気によく育つよう、また長生きするようお宮参りをする行事。
成人式	20 歳	1 月の第 2 月曜に、地方公共団体等がその年度内に成人に達する人々を招き、祝福する行事。女性は振袖、男性は袴またはスーツを着用する。
厄年	男子 25、42、61 歳 女子 19、33、37 歳	災難に遭いやすい年と言われ、この年になった人々は神社に厄払いに行く。男性は 42 歳、女性は 33 歳が大厄とされ、その前後の年も前厄、後厄とされる。